

ぽかぽか 71号



編集・発行
成田市社会福祉協議会
ボランティアセンター
成田市赤坂1丁目3番地1
TEL 0476-27-8010
FAX 0476-27-1265
ホームページ <http://www.naritashakyo.or.jp/>
Eメール volunteer@naritashakyo.or.jp

『触地図』にふれてみよう

～次世代ボランティアスクール～開催



手が目になるんだね



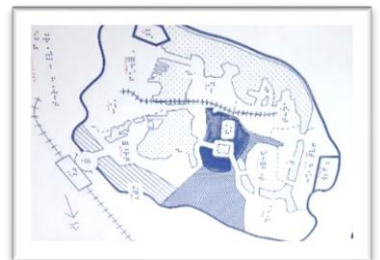
【講師】千葉県立成田国際高校
教諭 石毛一郎 先生
千葉県立盲学校での勤務経験後、
触地図のことを多くの子ども達に
知ってもらうため各地で活動中。

アイマスクをつけて凸凹のある地図を触ってみました。「うーん…むずかしい」との感想

夏休み中の8月25日に成田市保健福祉館で次世代ボランティアスクールが開催されました。参加したのは小学4年生から大学生、社会人まで13名です。

『触地図』について学んだ後、体験を兼ねてアイマスクで館内を歩いてみました。

『触地図』とは、視覚障がいのある方が、建物や道路などを手で触って読み取ることができる点字と線や面などを凸凹で表現した地図のことです。触地図の案内板は、市役所の入り口やトイレ前、駅や空港や公園やテーマパークにも設置されるようになってきたそうです。また、成田市視覚障害者協会の仲野会長から「視覚障害者の生活」についてのお話を聞くことで、障がいを持った方々の生活上での苦勞を知ることができました。



事前にもらえて自宅でも使えるディズニーランドの点字ガイドブック



参加者の感想

「触地図」はもっと立体的で幅をとるものだと思っていたが、薄くてA4サイズくらいのものもあって驚いた。

点で物が分かることにおどろいた。点字にも色々な書き方や形があることなど知らなかったことが多かった。

色々な場所で目の不自由な方を見かけることがあったが、実際に自分が経験したことで、どのように声をかければ安心してもらえるか分かった。

触地図が設置されていてもそれを見つけることも困難なことを知って、触地図に加え音声案内も併設すればより見つけやすくなるのではと思った。

初めて触れたが、表面の凸凹を感じにくかった。また、視覚障害の方が普段困っていることや意外な点に気づくことができた。

「▲が現在地だよね
今いる場所はどこだろう？」



館内に設置されている触地図を体験

子どもの気持ちに寄り添うボランティアをめざして

10月16日 子育て支援ボランティア養成講座を開催しました

子どもたちの自己肯定感を育てることが大切



「子どもが大好きな大人になるには」というテーマで開催されたこの講座では、気持ちを受け入れてもらえた経験が子どもにとって自信となり、保育者と子どもとの良い関係を築くことができるという関わり方のポイントを学びました。



【講師】伊藤 雄一郎 先生
現在、子育て支援の支援をメインに児童館や保育所で先生方に研修やコンサルテーションの指導をされています。



子どもとの関わりの基本

《愛着形成できる関わり》

- ・優しい笑顔でわかってあげる声かけと必要なお世話
- ・泣いてしまったらとにかく抱っこしてあげる
- ・指さしや注視しているものに対して言語化してあげる

《自己肯定感を育てる関わり》

- ・自由に動いてよい環境をつくっておく
- ・子どもがやろうとしていることにじっくり時間をかけて見守る
- ・上手くできていなくてもできたところをほめてあげる
(結果ではなく努力を認めてあげる)
- ・他の子と比べたりしない



いつも
ありがとう

子どもの行動の一つ一つには、子どもなりの理由があって、それを大人に伝えようとしているのだと感じました。子どもに寄り添う、わかってあげるという姿勢はとても大切で自己肯定感につながると感じました。

子どもがよくない行動をした時に「ダメ」と言ってしまうことや、少し怒ってしまうことがあったのですが、何故ダメなのか分かりやすく伝えたいと思いました。

参加者の感想

現在、児童ホームの支援員として働きはじめました。行動に困ることもありますが、あきらめずに関わり続けていこうと思います。この講座をきっかけに個人ボランティアの登録をしました。

子育て中の保護者の力になりたいと思えました。子どもの行動の不可解が納得できました。子どもの気持ちを理解すると保育がしやすくなりそうです。参加してよかったです。

大人との人間関係の作り方にも役立つ内容でした。またこのような講義を受けたいです。講師の先生のお話がとても良かったです。これからお子さんを預かるのが楽しみです。